

T u t t i

岡山県合唱連盟機関紙トゥッティ92号

発行責任者：事務局長 内田 毅
 事務局：岡山市中区福泊168-7 内田方
 TEL:090-4695-7826/FAX:086-274-2726
 e-mail: utida244@yahoo.co.jp

主な内容

- 2面 私の合唱体験(後編): 棚田 國雄
 3面 ウィーン演奏旅行:
 コール・ファミリーユ
 4面 創立30周年記念演奏会を終えて
 : 瀬戸内混声合唱団
 事務局通信

連盟70周年に向けて モツレクを歌おう!

岡山県合唱連盟副理事長 松下 泰久

2015年は岡山県合唱連盟が1947年の創立から「古稀」手前の68年目ですが、そろそろ2年後の70周年のことを考える時期が来ています。先日も常任理事会・理事会が開催され、周年行事について話し合いました。その内容を岡山県合唱連盟の皆様にもまずはお知らせします。その上で、これからの行事を一緒に盛り上げていただき、さらに合唱連盟に所属してよかった、いや合唱をできてよかったと思っていただけるよう相互にお力添えをお願い申し上げます。

常任理事会・理事会では、①記念演奏会、②記念祝賀会、③記念誌発行、④その他関連事業の計画、の四つのことについて話し合われました。

① 記念演奏会

部門ごとの合同合唱を基本とした構成とする。一般・おかあさん部門は、a 男声合唱、b 女声合唱、c 混声合唱の三つの編成で合同合唱ステージを持つ。(もちろん、大学や高校のメンバーのこちらへの参加は大いに歓迎いたします。)

また、ジュニア・中学校・高等学校・大学部門については、各部門で合同合唱を行うか否かをそれぞれ部門内で相談して決めてもらう。

指揮者(指導者)については連盟内からの選出にはこだわらず、外部からお招きして指導をお願いすることも可能。指導者の人選も含めて合同合唱の参加の可否について、ジュニア・中・高・大学の各部門内で早期にまとめていただく。

なお、開催時期については、平成29年の秋と考えていますが、学生団体は試験の期間の問題がありますので、合同合唱に参加となった場合には「最大多数」の参加可能となる適当な日程を検討し、連盟加盟の全員で70周年を祝えるという「最大幸福」となるようにしていきたいと思っております。

② 記念祝賀会

祝賀会は演奏会終了後に開催し、パーティーの中で団体、個人への表彰を行う。

③ 70周年記念誌

記念誌を編纂し発行する。これは創立50周年以降の連盟の活動記録集という重要な意味合いもあります。ありがたいことに、そのデータを前理

事長・元事務局長でまとめていただいています。これに新たなデータを加えながら岡山県合唱連盟の足跡をしっかりと残して将来にも役に立つ資料としたいと思っています。

④ 関連事業

実は、上記の①～③とは別に、先日、大きな演奏会の話が降ってきました。

世界的に活躍しているオーストリアの楽団「カメラータ・ザルツブルク」が世界ツアーの中で岡山にやって来ます。そして、そのプログラムの中にはモーツァルトの「レクイエム」があります。「降ってきた」というのはその合唱を岡山県合唱連盟で引き受けてくれないか、という話です。

常任理事会、理事会で協議した結果、“70周年を迎える合唱連盟を広くアピールするには格好のステージ”として、70周年プレ事業と位置付けて推進していくことになりました。

海外の一流オーケストラと共演できるような演奏会はなかなか経験できることではありません。また、岡山公演の翌日には同じプログラムで東京公演が行われますが、都合のつく方には是非連続して参加いただきたいと思います。

詳細は未定ですが、魅力ある演奏会の合唱を岡山県連が担当となったことをまずはお伝えします。

概要は次のとおりですが、お盆明けぐらいから団員募集を始めて、11月から1年間練習ということになりそうです。

【演奏会概略】

日程：2016年11月19日(土)岡山シンフォニーホール

2016年11月20日(日)東京・すみだトリフォニーホール

管弦楽：カメラータ・ザルツブルク(オーストリア)

指揮者：シュレンベルガー(岡フィル常任指揮者)

合唱：岡山県合唱連盟/岡山バッハカンタータ協会

合唱指揮：佐々木正利/小池芳弘(連盟内練習)

募集人数：50名(この募集以外にバッハカンタータ協会から約50名が参加することになっています。)

【必要経費】

1年間の練習経費の他に、チケットノルマがありますので合計で5万円程度は負担をお願いいたします。

昨年の11月中旬、棚田先生からお電話をいただきました。「高松での全国大会を聴きたいのだけれど、チケットはどうすれば手に入りますか?」と。当日券がありますので、とご案内し会場でもお声をかけていただきました。岡山第九の打ち上げで再びお話しする機会がありました。先日のコンクールのことから合唱教育の現状まで・・・私一人で聴くのはもったいないと、Tutti への投稿をお願いしました。長文でしたので2回に分けて掲載させていただきます。

《特別寄稿》

私の合唱体験（後編）

《歌うということ》について最近思うこと

棚田國雄（岡山混声合唱団）

「歌う活動を大切にし、人間の歌声の素晴らしさを知り、歌声による感動体験を大切にしたい音楽教育を、幼い時期から展開していただきたい。」と私は強く願っている。

人が「オギャー」と元気よく叫んでこの世に生まれる。これは、この世に生まれた小さな命の歓びの歌声だと考えられる。そして幼い時代は何かにつけ喜怒哀楽を口ずさんで歌うのである。歌うということは人間の根源的な活動であり、やり方によっては、いつでも、どこでも、だれでも、体を通して多様な音楽体験をし、その感性や感受性を培い高めることができる活動だと思う。

世界的に広がった日本発祥の「カラオケ」や「お母さんコーラスの大馬力」は、どこから生まれたのだろうか？終戦後平和憲法が制定され、文化国家を目指す意気込みが、学校教育にもあった。楽器等はまだまだあまり開発されていなくて、音楽教育は歌うことが中心であった。義務教育では各学年の必修曲を定めたり、中学3年の1時間を、幼い時代の指導が重要だとの考えから、小学1年生にまわして、週3時間の音楽時間があつた。これらの時代の学校教育の影響が「カラオケの流行」「お母さんコーラスの大馬力」になっていったのではないかと想像する。

ところが、世の中が経済的に豊かになると、楽器や器具を使用する音楽が発達し、こちらの方が高級な音楽であるという風潮が生まれる。また映像を通しての情報が世の中に多量に流れるようになると、色彩と動きのあるものがより優先して取り上げられ、それが高い価値あるもののように注目される。歌うという音楽の学習やその表現に関しては、テレビなどの影響が極めて大きいものであるが、映像の世界では、音の美しさより衣装の色や容姿・色気などで人気を取ろうとする。したがって音楽の内容もそれに沿ったものになり、キラキラした衣装をつけ、体をくねらせて踊りながら歌うことが流行する。

戦後の日本の義務教育における音楽学習は、鑑賞・創作・器楽に民族音楽・伝統音楽などと内容が多様になった。設備も次第に整ってきたが、残念ながら指導時間は逆に少なくなり「歌う学習活動」が次第に少なくなっているのではないかと心配するのである。小学校の教員養成の大学での声楽に関する単位は、最近かなり少なくても免許状が出るようであり、そのようにして卒業した教員が、学校現場で音楽を指導する

のだと、教員養成関係大学の先生が嘆いておられることがあつた。

少し前、TVで幼稚園や保育園紹介の番組があつた。園歌・愛唱歌を歌って園児たちに将来の夢を聞かせてもらう短い番組だった。メロディーはピアノで弾いているが、子供たちは違った音程で元気よく叫んでいるような場面を見て驚いた。私の長男が幼稚園から帰って、プレハブ教室だったのでよく聞こえたのだろうか、自分のクラスと隣のクラスの先生のまねをしてピアノを弾いた。自分のクラスはいつも「ドソミソ」の分散和音だった。この時代の子供の聴感覚の発達はずいのだと知り、大切にしなければならぬと思った。桃太郎の団員募集に応募したある幼稚園の子供が、入団面接会で「ひろい世界へ」（桃太郎の25周年記念委嘱作品の1曲）を素晴らしいボーイソプラノで歌い驚かされた。この園の先生によると「入園した時から、歌詩にふさわしい発声・発音と美しいユニゾンを大切に歌の稽古をしています。」とのことであつた。

最近岡山市内小学校の音楽会を聞きに行ったが、この行事は毎年市内の小学校が集まって開催されて、演奏発表・相互鑑賞を行い、音楽の楽しさや素晴らしさを体験する場となっているそうである。しかし、市内の校数増加で、この催しは各校7~8年に1回やってくるため、大部分の子供はこの経験をしないで卒業するのだそうで、とても残念に思った。

この音楽会では、参加各学校が合唱と合奏を発表する。ある小学校は、ステージの前に半円形に並び、お互いに声を聞き合うような隊形で「アヴェマリア」を静かに歌い始め好演奏だったが、大部分の先生方は、大上段に構えて異様な緊張感で曲が始まるのだった。合唱の演奏会を見たり、指揮法の初歩を少し学べば、その曲にふさわしい指揮ができるはずである。

ある時、定年退職した老紳士から「カラオケで好きな曲を歌うと、君の音はおかしい！」と笑われたので聞いてほしいと相談を受け、数回練習したところ「皆なにほめられた！」と喜んで来られた。50年間約1000人の少年たちと過ごしたが、音が取れないまま卒団していった者はひとりもいなかった。「歌う」ためには、多くの体験・継続した訓練がとても大切だと思った。

この世の中に、素晴らしい歌があふれ、歌声を通して、心癒されたり、励まされたり、勇気づけられたり、人の心を結びつけたりする、美しい時代がくることを夢見るのである。

コール・ファミリー 40周年記念ウィーン演奏旅行

コール・ファミリー 代表 飽浦 千春

2015年1月17日私たちは、憧れのウィーン楽友協会大ホールに立った。豪華絢爛なネオバロック様式の金黒赤の内装、煌めく10基のシャンデリアに息を呑む。

今年の元旦『ウィーンフィルニューイヤーコンサート 2015』でズービンメータが立っていた指揮台に、今は大森友美子先生が凜として咲く花のように立っている。

満席のウィーンのお客様の温かい眼差しに見守られながら、日本古謡『さくらさくら』の前奏が始まった。たすき掛け振袖姿でピアノを奏でる今井麻美先生の指先から桜の花びらがはらはらとこぼれ落ちて、「さくら さくら」皆の声が空間に響いた瞬間、満開の桜の花びらが大ホールに舞い踊った。数え切れないほどたくさんさくら色の花びらが、はらり、ひらり、光っては舞い上がりくるくると揺れて踊り、煌めく音

空間の中で音楽の神ミューズに抱かれる。私たちはこの瞬間を、決して忘れることはないだろう。日本から遠く離れたウィーン、それも世界中の音楽ファン憧れのウィーン楽友協会ですることができる幸せに感謝し、音楽に抱かれる感動は一生の宝物になった。

その後演奏した『中山晋平 10のメロディー』、大森友美子先生ソロの『宵待草』、鳴り止まない拍手喝采とお客様の笑顔に涙をこらえきれなかったメンバーも少なくない。

1月19日プラハ聖ヴィート大聖堂見学の折、讃美歌を歌う許しを頂き、ミュシャ(マハ)のステンドグラスの光のなかで歌った清冽な体験も、忘れられない思い出である。

コール・ファミリー 40周年記念ウィーン演奏旅行に際しまして、関係者皆様のご支援ご協力、家族の温かい理解を頂いたことを心から感謝申し上げます。



【事務局通信 I】新加盟団体
総会後に次の団体が加盟されましたので紹介します。

(連絡責任者)

(指揮者)

一般	638	<混声>	17名	(2015年加盟)	〒700-0016 岡山市 北区伊島町3-5-1 マンションカ材カ201号	〒719-1151 総社市 槇谷2408
Flügel			片岡 翼		山下 智義	片岡 翼
	〒719-1151 総社市 槇谷2408				TEL	TEL 0866-95-9204 FAX
	片岡様方				携帯	携帯 080-3890-5649
TEL	0866-95-9204	FAX			PCメール	PCメール
					携帯メール	携帯メール

創立30周年記念演奏会を終えて

瀬戸内混声合唱団 代表 山本まさみ。

私たち瀬戸内混声合唱団は創立以来30年の間に様々な音楽、指導者、人々に出会い、今日まで歩んできました。今回は組曲、アラカルト（お客様もよくご存じの曲）を第1、第2部で、第3部は東京から合唱指揮者の樋本英一先生を招聘してモーツァルト作曲「戴冠ミサ」を岡山、倉敷合唱連盟加盟の方々、一般公募の方々、総勢75名、岡山フィルハーモニック管弦楽団、オルガン、ソリスト4名の豪華なステージで合唱しました。来場者も1,000人を超え、大変感動的な演奏会でありました。

特に樋本先生による事前練習は毎回、3時間に及ぶものでしたが、発声、発音、体の使い方、気持ちの持ち方、歌詞の意味など含めて丁寧なご指導で大変勉強になり、今後の活動への良き指針になったのではないのでしょうか。又、団員もそれぞれの役割をきちんと果たし、演奏会ごとに成長してきている事を嬉しく思

っています。

30年間、続いているので、団員の高齢化は避けられず、家庭、健康、交通等の理由で退団される方もあり、長く共に歌って来た仲間を失うのはとても寂しいものです。どこの団でも同様でしょうが、いつまでも歌っていたい高齢者の合唱集団？が出来たらなと思うこの頃です。岡山、倉敷合唱連盟で企画される、合同演奏はとても良い企画なので、状況が許されるなら卒業団員も参加出来る様になればと私は思っています。

今まで、瀬戸内混声合唱団のためにご指導下さった、諸先生方に厚く御礼申し上げます。

又、戴冠ミサにご遠方より参加下さった、方々、ソロをして下さった。池田先生、脇本先生、津上先生、伊藤先生、オルガンの大下先生に心より御礼申し上げます。有難うございました。



【事務局通信Ⅱ】

- 1) 今年度の行事予定をお知らせします。岡山県連事業以外に全日本合唱連盟の事業も紹介しますので、計画を立てて良い演奏を積極的に聴きに行ってください。（6月以降のみ）

事業名	開催日	会場
第68回岡山県合唱フェスティバル	6/7(日)	岡山シンフォニーホール
第38回全日本おかあさんコーラス中国支部岡山大会	6/28(日)	倉敷市玉島文化センター
第4回全日本男声合唱フェスティバル in 京都	7/4(日)	京都コンサートホール(京都市)
第28回おかあさんカンタート in とちぎ	7/18(土)19(日)	栃木県総合文化センター(宇都宮市)
2015 どもこコーラスフェスティバル in ひろしま	8/2(日)	広島文化学園HBGホール(広島市)
第68回岡山県合唱コンクール	8/9(日)	岡山市立市民文化ホール
第38回全日本おかあさんコーラス全国大会	8/22(土)23(日)	札幌コンサートホールKitara(札幌市)
第54回中国合唱コンクール	9/19(土)20(日)	とりぎん文化会館梨花ホール(鳥取市)
第68回全日本合唱コンクール全国大会(高校・中学)	10/24(土)25(日)	大宮ソニックシティ大ホール(さいたま市)
第68回全日本合唱コンクール全国大会(大学・職場・一般)	11/21(土)22(日)	長崎ブリックホール(長崎市)
第23回岡山県ヴォーカルアンサンブルコンテスト	H28/2/11(木・祝)	倉敷市芸文館

- 2) 総会で説明した事業計画表から次の事業が漏れていました。来年は役員改選の年となりますので改選のための臨時総会を行ないません。次の日程を入れておいてください。

日時：平成28年1月10日(日) 14時から 会場は未定です。

- 3) 今回の Tutti 発行は1面でお知らせした“モツレク”の情報を載せるために遅れてしまいましたが、今年も年4回発行の予定で作業を進めます。次号は8月、そして11月、2月と発行しますので記事をお寄せください。コンサート情報も早めにお寄せいただければ助かります。

記事・情報は事務局まで(1面に連絡先を記載しています)。